学校番号	４０５

令和２年度　芸術　［音楽］

教科	音楽	科目	作曲	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	音楽通論（教育芸術社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ■　思い描いた曲想を自分なりの音楽に結び付ける作曲の表現技法を学習する。
- ■　パソコン操作技術などの習得を同時に行いながら、作曲の学習を効率よく取り組めるようにする。
- ■　学習の到達度は、授業で配布・回収するワークシートで評価する。

2　学習の到達目標

個性豊かな表現の能力を高め、主体的に課題に取り組む姿勢を育む。様々な表現活動、表現技法を身につけて、自己の内面を作品に反映させる学習活動に取り組む。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽の様々な要素(音色・リズム・速度・旋律・テクスチュア、強弱、形式、構成など)や作曲背景を意識し、新しい音楽を知ろうとする。	基礎的なルールや音楽理論を意識するだけでなく、明確な意図やイメージを持って自発的に作曲する。	より良い記譜法はもとより、楽譜を音にした時にどのようになるかを考え、音による表現に結び付けて楽譜を作成する。	様々な音楽を聴き、それぞれの音楽が持つよさや美しさを味わう。作曲技法や意図から音楽を分析的に捉え、創造性に着目して鑑賞する。
評価方法	観察 ワークシート 作品発表	観察 ワークシート 作品発表	観察 ワークシート 作品発表	ワークシート 鑑賞の記録

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
		a	b	c	d		
1学期	楽譜作成ソフト「MuseScore」の操作技術を習得する	○		○		a:記譜行為と音楽を形づくっている要素とのかかわりに興味・関心をもっている。 c:表現したいことを伝えるための記譜技法を身につけている。	楽譜データ提出
	メロディーと伴奏の創作課題を通して和声感覚を身につける	○	○		○	a:メロディーと伴奏それぞれの基礎的な方法と特徴に関心を持ち、作曲に主体的に取り組んでいる。 b:曲想の独創性を高め、それを生かして主体的に表現を工夫している。 d:楽曲の構造を知覚し、その効果を多角的に感受した上で、自分の考えを的確に伝える技能を、身につけている。	楽譜データ提出 音源発表 鑑賞の記録
2学期	対位法的な創作課題を通して音楽構造を意識した作曲を行う	○	○	○	○	a:音符同士の関係性と音楽を形づくっている要素の関連を積極的に感じ取り、受け入れようとしている。 b:楽譜で表現できる様々な要素の対比の観点で具体的な意図を持ち、作品の個性を意識し主体的に表現を工夫している。 c:表現したいことを伝えるための手法とアイデアの独創性を身につけている。 d:作曲者の独創性を尊重し、そのよさや美しさを創造的に味わって聴き、自身の作曲に活かす。	楽譜データ提出 音源発表 鑑賞の記録
	ドラムセットを扱った作曲を行いポップスの手法を身につける。	○	○			a:ドラムセットが作り出すリズム感とその他のパート同士の関係性と音楽を形づくっている要素の関連を積極的に感じ取り、受け入れようとしている。 b:具体的な意図を持ち、作品の個性を意識し主体的に表現を工夫している。	楽譜データ提出 音源発表 鑑賞の記録

3学期	歌詞を用いて作曲を行う	○	○	○	○	a:歌詞とその音楽の特徴に特徴に関心を持ち、歌詞の構造と音楽の関係性の学習に主体的に取り組もうとしている。 b:歌詞の内容と、音楽を形づくっている要素の働きを感じて、自発性を持って表現を工夫している。 c: 歌詞における言語の用法を作曲に活用する手法を身につけ、総合的な作曲技術の応用と共に、主体的に表現を工夫している。 d: 音楽を形づくっている要素を総合的に知覚、感受し、それらの価値を分析的に考えることを通して、作曲に対する理解を深め、楽譜と実際の音双方にあるそれぞれのよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	楽譜データ提出 音源発表 鑑賞の記録

※　表中の観点について　a:音楽への関心・意欲・態度　b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能　d: 鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。